

虚子記念文学館投句特選句・令和二年十二月

稲畑汀子 選

椿子の面影残す納句座

京都 西村やすし

なつかしきやさしき日ざし十二月

神奈川 進藤剛至

新しくふえし俳磚冬ぬくし

新潟 安原 葉

冬の朝愛車手離すこととなり

兵庫 中村恵美

冬芽立つ命の色のそれぞれに

大阪 杉山千恵子

猪鍋や噛みしめて聞く山の音

兵庫 山田佳乃

邸内の落葉の風情踏む風情

兵庫 黒田千賀子

松に菰巻いて静かに冬の庭

石川 辰巳昌彦

病む母の目線の先へ聖樹かな

兵庫 キートスばんじょうし

年の瀬や磨きあげたる片手鍋

兵庫 武田奈々

(青少年)

# 入選句・令和二年十二月

設への邸の落葉に足しづめ	兵庫	岩鼻絹子	山国の翳りやすさよ牡丹鍋	兵庫	吉村玲子
イントロをハミンググリーグ聴く師走	大阪	大川隆夫	鶴万羽眠らせ月の遍かり	兵庫	小杉伸一路
落葉街灯に透ける風が刺す	兵庫	榎本	喪の知せとどき初めて知る師走	奈良	好川忠延
句作する子の一人増え冬の星	兵庫	井上竜太	出水野の絵巻万羽の鶴舞へり	兵庫	岩水ひとみ
記念館字にのこりてこそ冬の空	兵庫	寺田紗希	水鳥や幾千里への羽繕ひ	東京	拓庵
寒鴉今日も庭から旅立ちぬ	兵庫	近藤有紀	散り紅葉卓に並べて昼の句座	兵庫	入谷千恵子
マスクして希薄になれり人の縁	大阪	河辺さち子	霜の夜や己が正義を持てあまし	兵庫	伊藤秀子
冬帝の恙のありて晴続き	兵庫	槌橋眞美	マフラーの色さまざまに通学路	兵庫	三木雅子
冬日和二日続きの芦屋句座	兵庫	森岡喜恵子	海光を加へ明るき冬日かな	兵庫	長安悦子
日の庭を少し広げて枯木立	大阪	山下幸典	落葉掃く人に又もや落葉舞ふ	兵庫	小川孝子
俳磚の耀ふ館の冬日濃し	石川	村上秀吾	陽だまりに乳子あやすごと枯芙蓉	神奈川	平野孤舟
諷詠を励みに自肅年惜む	兵庫	内田泰代	新しき句友の増ゆる年暮るる	京都	杉森大介
落葉してゆかしき庭でありにけり	兵庫	中村澄子	庭隅に置いてきぼりの寒さあり	兵庫	深尾真理子
満席の熱気虚子館師走句座	兵庫	玉手のり子	三姉妹眼下パノラマ冬紅葉	兵庫	近藤新子
大冬木撫でて句作の力得る	兵庫	高橋純子	一切を惜しみ師走を惜しみけり	兵庫	奥田好子
自己主張貫き孤独榎櫃の実	兵庫	小柴智子	粕汁に夫の蘊蓄ひとしきり	滋賀	石川多歌司
凧日和海苔舟網を仕掛けをり	兵庫	高野さち	風花舞ふ六甲の空優しくて	兵庫	岸田 健
角曲り来る咳は夫のもの	兵庫	齊木富子	虚子館へ庭の落葉の嵩踏みつ	兵庫	堀口俊一
時雨来て草につまづく乳母車	鳥取	前田 千	玻璃ごしの星潤みたる寒夜かな	兵庫	西村みどり
虚子館に飾られ小さなクリスマス	石川	辰巳葉流	句に詠みし恙落ち着き納め句座	兵庫	福間笙子
蘆枯れて六甲山の大きかり	兵庫	藤井啓子	行く雲へ触れんと挙り立つ冬芽	兵庫	二瓶美奈子
小さく小さく天使飾りてクリスマス	兵庫	岸川佐江	眠るため桂枯木となりにけり	兵庫	田中節夫
虚子館といふ煤逃の楽天地	兵庫	池田雅かず	マスクにも流行とり入れダンディに	兵庫	山本康子
白鳥の首傾げて夢の中	兵庫	河野ひろみ	縫ひ急ぐ自衛のマスク大きめに	兵庫	渡辺しま子
クリスマス卓布を赤に換へてより	兵庫	辻 桂湖	水鳥の羽音残して飛びたてり	東京	宮村土々
霜の夜や文芸はかく孤独なり	兵庫	永沢達明	美人画の手なほなまめかし古曆	兵庫	高市敦之
白鳥の翼統べし嶺々の白	兵庫	涌羅由美	揺るぎなき影となりたる枯木立	兵庫	田村恵津子
日の本へ穹渡り来し白鳥	徳島	奥村 里	日向ぼこ坪庭四角猫丸く	神奈川	金子三奈乃
			聖樹にも臉にも降る銀の花	埼玉	土井洋子
			ひっそりと生きる本能冬芽たち	東京	三球